

読者の声

北海道自然保護協会創立 50 周年、おめでとうございます

神原 昭子
(札幌市)

北海道自然保護協会が 50 周年を迎えたのですね。おめでとうございます。

私が東京から札幌へ移り住んだのは、1989 年の春でした。そして、ひょんなことから、同じ年の 12 月に、自然保護協会の会員になったのです。

そのころ私は、消費者運動の総本山、日本消費者連盟の運営委員として、食べものや食品添加物をはじめ、合成洗剤、農業や農薬、環境ホルモン、遺伝子組み換え、ゲンパツの問題などで活動しながら、同時に、リゾート・ゴルフ場問題全国連絡会でも、全国を飛びまわっていました。

1989 年の 11 月、北海道の広島町(現在の北広島市)のゴルフ場から大雨によって大量の農薬が流れ出し、その下流にある養殖場で、9 万匹もの魚(ヤマベとドナルドソン)が全滅するという、ショッキングな事件が起きました。これがテレビの全国ニュースで流されたのです。それまでにも全国連絡会は、「ゴルフ場やスキー場をこれ以上つくらないでほしい」、「くりゾート栄えて山河なし」は、「いらない」と訴え続けてきたのですが、広島町の事故以後は、日本中のゴルフ場がパニック状態。「あちこちのゴルフ場計画で、共倒れになるのではないか」と心配する声も出てきました。

それもあってか、北海道自然保護協会から最初に声をかけられたのは、「花の名山・夕張岳にスキー場はいらない」ということで、夕張を中心に自然保護関係の人びとが、夕張で同年 12 月にシンポジウムを開催することになり、私も、相談がてら、パネラーのメンバーになったのです。結局、夕張岳にスキー場はつくられずにすみました。

日本中がリゾート開発ブームで沸き立つ中で、北海道自然保護協会なども、いやおうなく、リゾート開発のあらしに巻きこまれていきました。

あくる年の 2 月、自然保護協会から、「ゴルフ場開発汚染・何が問題か」をテーマに講演を頼まれました。そこで、それまでにつくられたリゾート施設、ゴルフ場やスキー場などについてお話ししました。森林や原野、農地などが大規模に破壊され、

また、さまざまな農薬や化学肥料、土壌改良剤などがまかれたうえに、それによって汚染され、赤く変色した水が排水溝を伝わって流れ出る、いわば、いのちの影すらない様子を説明したのです。

それからは、私も自然保護協会などとともに、リゾート開発はもうやめるように、市町村や道庁へ要望し続けました。その後、バブルははじけて多くのリゾート計画は失敗し、生き残ったリゾート施設も、大部分は赤字経営が続き、外国企業も含めて、他の企業に転売されているようです。1987 年 6 月に施行された「総合保養地域整備法」、いわゆる「リゾート法」は、いまだになくなっています。このままでは、第 2 のリゾート開発が出てこないか、心配です。

私は、1999 年に脳内出血で倒れ、利き腕の右の手と右足にマヒが残り、以前のように、歩くことはできなくなりました。これまでこれからも、北海道自然保護協会は、取り組まなければならぬ問題をいっぱい抱えています。かけながらみなさまのご健闘を祈っています。